

VISION 2020

本年1月28日(陽暦)で、真の父母様のご来日50周年を迎えました。1960年にご聖婚式を挙げられ、真の父母として初めて来日された記念すべき日です。1958年に崔奉春(日本名、西川勝)先生が日本で宣教を始めてから7年目の65年1月28日、東京国際空港(羽田空港)には真のお父様に一目お会いしようと、日本の食口約200人が駆けつけていました。真のお父様が搭乗された飛行機は午後5時20分に空港に到着。機体からタラップへと出て来られた真のお父様は、食口たちに向かって手を振られながら、日本の地に足を踏み入れられました。真の父母様は、世界40カ国120カ所に聖地を定めるための第一次世界巡回旅程の最初の訪問国として来日、東京・名古屋・大阪・高松・広島・福岡・札幌・仙台の8カ所で聖地を決定され、2月12日に米国へと向かわれました。

日本で統一教会の最初の礼拝が行われたのは1959年10月2日(日本統一教会創立記念日)、東京都新宿区の「雄鷄舎」という時計屋の二階でした。その時の礼拝参加者は崔宣教師を入れて4人。その後、伝道が進み、62年12月には全国9カ所の地区に教会が設立され、各地区の教会長が任命されました。64年7月15日には、世界基督教統一神霊協会(初代会長・久保木修己)が宗教法人として認証され、同年11月1日、本部教会が渋谷区の南平台におかれました。

本部教会で歓迎礼拝

そして65年1月28日、真の父母様の初めてのご来日となりました。空港で入国手続きを済まされた真のお父様と、崔元福先生、金永雲先生のご一行は、関係者の車に乗られ、本部教会へと向かわれました。

本部教会には、礼拝堂に入りきれず、玄関、廊下にまで満ち溢れた食口約250人が聖歌を讃美す



る中、真の父母様ご一行が礼拝堂へと入れ、28日午後8時から「歓迎礼拝」が行われました。

真のお父様の日本で初めての説教の題目は「神の目的と我々の目的」。当時は、お父様の日本語が堪能であることを知らなかった食口も多く、約2時間にわたりお父様が日本語で語

られ、さらに日本についてとても良くご存じだったということに食口たちは大きな感動を覚えました。お父様の説教を通して食口たちは深い愛に満たされ、本部教会は感激の涙に溢れたのです。

三橋さんとの劇的な再会

またこの日、真のお父様は石井トミ子夫人(第6代日本統一教会会長夫人、当時は旧姓阿部)に、「先生が下宿していたところに行ってみよう」と言われ、石井夫人が「なんという方ですか」と聞いたら、「三橋」と紙に書かれたということです。





真のお父様が1941年から43年の日本留学時代に下宿されていた三橋孝蔵・イトさん宅のことです。お父様は早稲田大学附属早稲田高等工学校で学ばれ卒業されましたが、その頃の日本は、下宿を探しても、朝鮮人ということで門前払いされることが多く、民族的差別を受けていた時代でした。そうした中で、三橋さんは「とても良くしてくれた。田舎に行って草餅をもらって来てみんなに平等に分けてくれた」と石井夫人にその時、三橋さんの思い出を懐かしそうに話されたそうです。

1月29日、真のお父様は学生時代の下宿先であった三橋宅を長時間かけて捜されました。下宿していた当時と街並みが大きく変わっていましたが、お父様は一生懸命に三橋宅を探され、21年ぶりに三橋イトさんと劇的な再会を果たされたのです。

その日の午後7時30分からは本部教会で、統一旗の授与式が行われ、その後、和動会が持たれました。午後11時半を過ぎたころ、お父様は統一旗マーク入りのハンカチを出席者全員に配られ、続いて翌日の午前4時までみ言を語られました。

東京に日本最初の聖地を決定

1月31日早朝には、明治神宮を訪ねられ、日本で最初となる東京の聖地を決定されました。またこの日、真のお父様は日本で初めて聖日礼拝を主管し、「イエス様の最

期と我々の覚悟」という題目で、4時間を超す説教をされました。

その中でお父様は、「日本全国ができないことをやれば、日本を救うと言うんですね。世界すべての、人類のできないことを、この日本国民が先立ってやれば、世界をリードするその国民になると言うんですね。…だから日本を愛しなさい。先生より以上愛しなさい。世界を先生より以上に愛しなさい。天の父を先生より以上愛しなさい」と強調されました。

名古屋は「天宙における最も古い名高い家」

2月1日午後1時、新幹線ひかり号で真の父母様ご一行は東京を出発し、午後3時30分に名古屋駅に到着されました。名古屋城、テレビ塔等をご見学になり、4時半頃、名古屋教会へご到着。歓迎会では3時間半にわたるお父様のみ言がありました。

お父様は、「東京は東の都、つまり神の創造の始めの国、エデンの都を指しているが、名古屋は一番古い家、つまり天宙における最も古い名高い家。それはアダムの家を象徴しており、古い故郷を思い出させる」と語られました。

夕食後は和動の時間を持たれ、皆時間の経つのも忘れ、お父様がお休みになられたのは、明るく朝の4時近くでした。

2日は陰暦の1月1日午前5時に敬礼の儀式が行われました。聖地はその朝、東山公園内の高台に決定され、聖



① 真のお父様の45歳御聖誕祭の記念撮影（1965年2月7日、東京・南平台の本部教会）
②③ 揮毫『天下統一之星』『香花盛園之都』（名古屋） ④名古屋の聖地を決定される真のお父様（65年2月2日）
⑤大阪の聖地を定められる真のお父様（65年2月3日） ⑥揮毫『勝越大阪之峠』（大阪） ⑦み言を語られる真のお父様（65年1月28日、東京・南平台）

別式を行い、教会に戻られた後、正午近くから、食口たちを前にいろいろとお話しされたり質問を受けたりされました。

「大阪は皆が一つの家族」という感じが強いところ

名古屋を発たれた真の父母様ご一行は、午後7時に大阪教会に到着され歓迎会が持たれました。お父様はみ言の中で、「東京は、東のエデンの園を表し、名古屋は、名高い古い屋敷を表し、ここ大阪は、大きな峠を思わせます。ゆえに、大阪の地は、勝敗を決する十字架の峠であり、この地の復帰が、日本あるいは世界の栄光の峠になることを願います」と、土地の因縁を述べられ、「大阪は皆が一つの家族という感じが強いところ。神を中心として、心情が繋がれていけば、国境も何も問題ではない。先生は、日本人である。日本を真に愛する者が、真の日本人であり、世界を、天宙を愛する者は、世界人であり、天地に公認される者となることできる」と語られました。

その後「茨なる道の復帰路程」と題して、3時間余りにわたってお話しされ、午後11時半、ようやく食卓につかれました。

2月3日、お父様は大阪城内に大阪の聖地を決定されました。

高松で地方における伝道の心構えを語られる

真の父母様ご一行が、高松教会に到着されたのは2月

3日午後10時。到着後すぐにみ言を語られ、「過去の人のできなかった、より以上の蕩滅を克服してこそ勝利することができる」と強調され、地方における伝道の心構え等について、約2時間にわたってお話しされました。4日午前1時に、宿泊される旅館に向かわれました。

4日は朝食をとられながら真のお父様を囲んでの和動会、質問会が始まりました。その後、屋島に向かい、瀬戸内海を一望することができる屋島山頂の屋島公園内の雑木林の一角に聖地を決定されました。

広島の本営跡に聖地を決定

2月4日午後8時ごろに広島に到着された真の父母様ご一行は、市内の中心部を通って教会に着かれ、「勝利の歌」の合唱の中、部屋に上がり講話を始められました。

お父様は「30億人類は歴史的心情、イエスの内的心情、十字架の内外共の心情を全体的に知って心情的蕩滅の基準を地上に決定させ、神を慰め、あなたを見てすべての苦勞を忘れ、あなたがいるから新しい希望、新しい勇気を持つことができるところまで行かなくてはならない」と語られました。お休みになられたのは翌日の午前3時過ぎでした。

5日は朝食の後、質問および和動会を終えて出発され、広島城跡（本営跡）に聖地を決定されました。



①揮毫「天惠仰飛する高松の鶴 勇飛天高統一勇士に似る」(高松) ②高松教会にて(65年2月4日) ③広島教会にて(65年2月5日) ④揮毫「福地建設之地 日本之廣島也」(広島) ⑤⑥揮毫「萬民拜服福岡」「東園聖光之地」(福岡) ⑦福岡教会にて(65年2月5日) ⑧札幌教会にて(65年2月8日) ⑨揮毫「宇宙主官願ふ前に我を主官せよ」(札幌) ⑩仙台教会の食口たちと共に(65年2月10日) ⑪揮毫「天國花仙台」(仙台)

行の歓送会が行われました。お父様は「万民に必要とされる者となろう」と題し、「日本的以上でなければ、神は必要としない。君たちは日本人に違いないけれども、日本人の中の日本的では必要としない。…30億人類を神は必要とする。本当の日本人として、最高の価値ある位置に立ち得る

福岡の地が、神が誉めたたえる故郷の一角となるように

5日午後8時ごろに福岡教会に到着された真のお父様は、休憩の時間も惜しまれ、すぐに「行きたいところ、会いたい人、住みたいところ」と題し、み言を語り始められました。

お父様は、「この地が、神が誉めたたえる故郷の一角となるように、どうぞよろしく。そうするには君たちの汗と血と涙が限りなく流されなければならない。そして福岡は地が良い。祝福を受けた。…国家建設の時には重大なる功労功績を残した地名を汚すな。本部を東京より福岡に置くのを願っているかもしれない。伝統を作れ。皆、東京に来い」と語られました。

6日は聖地決定のため西公園に向かわれ、片手に市内全域を見下ろし、片手に博多湾を望む公園内の地を聖地に定められました。

日本でご父母様と共にご聖誕日を祝賀

1965年陰暦1月6日(陽暦2月7日)午前零時、本部教会2階において真のお父様を中心に祈禱会が持たれた後、1階の礼拝堂で敬礼式、真のお父様の祈禱とみ言があり、3時に閉会となりました。

この日行われた聖日礼拝で、真のお父様は「我々は中心を求めて一つになろう」という題目で4時間にわたり、み言を語られました。

午後8時から行われた和動会では、1メートルもあるバースデー・ケーキにお父様はナイフを入れられ、続いて食口たちはそれぞれ芸を披露。真のお父様のみ言が2時間ほどあ

り、午前3時半過ぎにご聖誕を祝う場は幕を閉じました。

ご聖誕日に寄せられた真のお母様のお手紙

(翻訳：崔元福先生)

「愛する日本の皆様へ
皆様はいかに待ちに待ちこがれたことでしょうか。幸福とあこがれの日でございます。各々が、よろずの心で想像してお待ち申し上げた実体の父が…。あなた方の夢は実現したのでございます。

皆様、たったひとつ遺憾なことは、席を同じくして、この喜びの日を過ごすことができないのが、残念でなりません。

愛する皆様、御父様にお目にかかれて、いかがですか。喜ばしく…、それとも、隔たりを感じておりませんか。

でも急がないで。心、生命の問題ですから、心から心情を、そして皆様の目を開いて下さることでしょう。悔いすることなく、侍り慕う生活のうちに、御父様の心情の懐にたどり入りますように。

御父様がどんなこととお話しになっても、それは皆様を生かす父母の心情でございます。皆様は、心を尽くして父と共にあり、御旨成るその日まで健闘し、勝利の一日まで、天と地と人類が待ち望むその日を迎えるまで猛進しようではありませんか。両手を広げて、御父様は育て下さることでしょう。

望み望んだこの日、この歡喜法悦は、今は私たちだけですけれど、これを万民に伝える日まで落ちることなく、最後まで猛進に猛進を続けましょう」

北海道神宮の純白の雪の中で聖地を決定

真の父母様ご一行は2月8日午後2時10分、北海道千歳空港にお着きになり、札幌教会では、釧路、帯広の兄姉と共に15人が集まり、お父様をお迎えしました。夕方4時頃、北海道神宮に行き、真のお父様が腰まである雪の中を先頭に立って掻き分けられ、純白の雪の中で聖地を決定されました。

夕食後、お父様は、「私たちは日本に立つ使命感を強くしなければならず、天を代表して立つ者には自己的な平安は決して許されない。神の願いは体験しなければわからない。…神の心情の中に生きる者となれ!」と力強く語られました。深夜2時まで続いた和動会では親しみ深い雰囲気の中で、お父様は一人一人と握手をされました。

仙台で青葉城内に聖地を決定

9日は早朝6時半、教会を出発され、7時15分の汽車で仙台に向かわれました。深夜に仙台に到着されたお父様は、10日午前1時40分から『神と逢う所』と題し、み言を2時間にわたって語られ、午前4時になって床に就かれました。

翌日、お父様ご一行は青葉山に向かわれ、青葉城内に聖地を決められ、仙台発の飛行機で羽田に向かわれました。

本部教会で歓送会

2月11日午後9時より、本部教会で真のお父様ご一

日本人として認められるか、それを反省しなくてはならない。…これ以上の愛をもって日本を愛したものは無いという男が現れるなら、過去・現在・未来を押し分け、その愛する心は歴史的であり、世界的であり、天宙的であるという自信を持ちなさい。その人は神を占領する」と語られました。

米国へ出発

1965年2月12日午前10時、真の父母様ご一行は、羽田空港から、米国サンフランシスコに向かわれました。空港では約150人の食口が聖歌を合唱、タラップを昇られたお父様は、見送りデッキにいる食口たちに向かって大きく手を振られて搭乗、日本を発たれました。

ご来日後は飛躍的に伝道が発展

真の父母様の初めてのご来日後の1965年8月23日、本部教会は渋谷区南平台から現在の松涛町1-1-2に移転。日本統一教会の初期の基盤を築いた崔奉春宣教師は米国での宣教のため、同年11月12日に日本を立ち、渡米しました。

そして真の父母様のご来日前は数百人であった信徒の数は、ご来日後は飛躍的に伝道がすすみ、わずか数年のうちに数千人に増えたのでした。真の父母様ご来日50周年を迎えた私たちは、草創期の先輩の努力に負けない精誠を捧げて、さらなる飛躍・発展を遂げて参りましょう。

2015年・年頭の挨拶

七大運営指標の
モデル地区を目指します！

第1地区長

矢吹 恭一



新年あけましておめでとうございます。

昨年10月5日、第1地区・北海道に、VISION2020完遂の為、七大運営指標を具体化する為の「札幌はなぞの総合研修センター」が完成致しました。宋龍天全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻から、「真のお母様からのお祝いの言葉」を承り、北海道の教会員一同、喜びと感謝の中で出発致しました。

2015年は、真の父母様を称え、讚美し、そして真の父母様こそが、日本を、世界を救ってくださった大恩人であり、イデオロギー、人種、宗教、国境、貧困、食糧等の人類が抱えている問題解決の為に、様々に代案を提示され、神様の解放と、祝福、真の家庭運動による人類一大家族世界、世界平和の実現に生涯を捧げた真の父母様を証していきます。

具体的には、同研修センター8階に常設の「真の父母様生涯路程と北海道統一運動史展示室」を中心に、各教会に「展示室」を開設。真の父母様の真実の姿を北海道民に情熱をもって、全教会員が証していきます。

また、教育に関しては、未来の摂理の主役である二世、青年の教育、壮年婦人の若返り、教会員の能力の公的化、そして、祝福家庭の幸福度アップの為、「良き親の為のセミナー」「良き家庭をつくる為の親子セミナー」等々、真の家庭運動、神氏族的メシヤ活動を展開してまいります。

真の父母様のみ言に「感謝できる人は、天運を受ける。許すことができる人は、心を開くことができる。為に愛することができる人は、幸せを運んでくる。皆と一つになれる人は、目的を実体化できる」とあります。今年はこの精神で、七大運営指標のモデル地区を目指します。

真の父母様の愛と精誠を
実らせていきましょう！

第2地区長

柳 根汀



2015年は天の摂理を中心とした一つの節目であり、極めて重要な一年であると思います。日韓外交正常化50周年、戦後70周年、そして何といたっても真の父母様訪日50周年の意義深い年であります。

真の父母様がこの母の国・日本に生命の種を植えてくださってから50年を経た今、何としても一つの実りある結果を実現しなければなりません。

特に第2地区仙台に来られた際、「神と会う所」という題のみ言の中で、神と会うための3条件として、①真理、②真理と一体化した実体、③神が願うところの心情——がなければならないと語って下さいました。

また、お父様は「天国花仙台」と祝福の揮毫を書いて下さいました。揮毫の如く、今年は仙台、東北に天国の花を咲かせたいと決意しています。

その為には、天一国時代に相応しく食口を大切に作る教会文化を作り上げ、食口たちが喜んで神氏族的メシヤの責任を果たせるよう内外共の環境を改善していきたいと思えます。

その基盤の中で、VIP伝道教育から祝福にまで導けるよう道を開いていきたいと思えます。

更に、作並修練所をフルに稼働させ、家庭教育、二世青年学生教育、VIPまでの教育を進めながら、地域と密着した取り組みをしていきたいと思えます。

そして、今年はその未曾有の東日本大震災から4年目になりますが、まさにこの母の国・日本の危機を回避するための蕩滅的災害の犠牲を無にすることなく、この天一国3年は、第2地区・東北として特別な使命感を持って、母の国・日本の摂理の牽引車となる決意を持って取り組んでいきます。

2015年・年頭の挨拶

天一国時代に相応しい
私・家庭・教会づくりが出发点

第3地区長

五十嵐 政彦



新年、明けましておめでとうございます。

基元節を越え、真の父母様の勝利圏の中で新しく出発した母の国・日本が、7年路程の前半最後の年である2015年を出発するにあたって、喜びと感謝の思いと共に、この年を良く越えていかなければならないという緊張感の中に過ごす日々です。

年頭に宋龍天総会長から「2015年は、天が役事して下さる私、家庭、教会となつてこそ勝利的に越えることが出来る」とのメッセージがありましたが、基元節2周年に向かう今、天の父母様の祝福を受けた私達自身の大きな変化が願われていることを感じております。

神氏族的メシヤの推進を基台とした爆発的伝道の勝利も、その先にあるVISION2020の勝利も、天一国時代に相応しい「私」「家庭」「教会」を作ることが核心であり、そこからしか始まらないと考えております。

そしてそれは常に私自身が、創造本然のアダムとエバのごとく一点の曇りもない姿となることを自ら追求していくことからであり、教会においては常に責任者からであることを胸に刻みながら、足りない自分自身を真摯に受け止め、それでも愛して下さい、私達自身の中にある創造本然の無限の可能性を信じて下さり、それを育てて下さろうとする天に感謝しながら、日々努力していきたいと思えます。

「許しましょう、愛しましょう、一つになりましょう、感謝しましょう」という真のお母様のみ言を、私自身、私の家庭、私の教会で実践しながら、天と共に勝利し、大きな喜びを天の前に返すことが出来る2015年としていきましょう。

VISION2020 勝利の為に
確固たる基盤を築く節目の年に

第4地区長

南 昶卓



真のお父様の聖和以後、真のお母様は「神様の摂理の中断なき前進」というみ言を下されると同時に、摂理の最前線に立たれ、私たちを陣頭指揮しておられます。

そして、深刻に走ってきた3年を振り返って見れば、誰も成し遂げることのできないたくさんのごことをしてこられました。この2015年を中心として、VISION2020勝利の為に確固たる基盤を築く摂理の一節を作らなければならないと感じます。

真のお母様が3年間摂理を導いてこれながら、その中心軸に立ててこれた内容をもう一度胸に刻んでみようと思えます。第1に、天一国の伝統確立です。真の父母様が立てられたその伝統を命のように守り定着させて子孫万代に1%の変質なく相続させることのできる者となるように、一つ一つ継続的に努力していきます。

2番目は、未来を担う二世を育てることです。真のお母様は何よりも未来の世界の為に、二世圏に関心と愛を注ぎながら投入しておられます。私たちも、二世圏の為の計画を立てて準備し、実践していきます。

3番目は、神氏族的メシヤの勝利です。一家庭430家庭の勝利は、個人的には完成の為に歩まなければならない宿命的な道であり、全体的には国家と世界を生かし、天一国を完成する道です。そして何よりも、真の父母様に孝行する道であることを知っているがゆえに、現実の障壁がどんなに高くても、越えに越えて勝利者の誇るべき姿となるよう実践し、内外的基盤を作っていくことを決意します。

不足な姿を限りなく信じて下さり、勝利を願っておられる真の父母様と共に生き、呼吸し、仕事ができるすべての内容から感謝し、2015年も喜んで希望的に前進いたします。

2015年・年頭の挨拶

信仰の原点に立ち返り
VISION2020 実現に挑戦第5地区長
金 満辰

天一国基元節2周年の年、2015年明けましておめでとうございます。

昨年は試練を克服する年として「東京が蘇きてこそ世界が生きる」を合言葉として歩んでまいりました。その食口の精誠の歩みと天の恩恵の結実をみて、昨年1年は感謝の中で終えることができました。

今年2015年は、伝道と祝福において、大きく発展するために、信仰の初心と原点に回帰してVISION2020を実現していく挑戦の年とっております。

今年は真の父母様が御来日されて50周年であり、日韓国交正常化50周年の節目の年にあたります。

諸先輩から証しを伺えば1965年当時、日本食口の環境は大変みすぼらしく、その日生きていくのに困窮を極めておりながら、創造本然の世界に憧れ、夢と希望を抱き、痩せこけた身体にもかかわらず、食口のまなざしだけはきらきらと輝いていたと聞いています。

そして、誰かがこの日本の御旨を背負わなければならないとしたら私が担う、という使命感に燃えていたということです。

原理講義の声が絶えず、祈りの声が絶えない教会が草創期の教会でありました。2015年を迎えて時代と環境は変化しましたが、志と精神は草創期の原点に回帰して歩みたいと決意しております。

特に、都市圏東京の特質として、青年と二世の伝道、教育、祝福、さらに公職者として養成していく環境整備に力を投入していく所存です。

真の父母様と諸先輩が築き上げたみ言の伝統と祈り、開拓伝道の汗と涙を2015年に結実させ、さらにVISION2020に向かって邁進してまいります。

真の父母様の心情世界を
相続して出発第6地区長
全 柱奉

明けましておめでとうございます。天一国基元節3年を迎える2015年、皆様が健康で幸せな新年となりますように祈願致します。

今年の干支は乙未です。羊は昔から聖なる動物とされ、温順な性格で飼い主に良く従うことから、贖罪の祭物として天に供えられ、人間の罪を代贖する動物です。聖書の中でイエス様は子羊で表され、その聖婚も子羊のお祝いで表されており、さらにアブラハムの3つの祭物の中にも含まれる、とても聖なる動物、羊の年です。

また、今年は真の父母様が1965年1月28日にご来日され、1月31日に世界120聖地の第1聖地を明治神宮に決めて下さってから、50年目を迎えます。

この貴い年を迎え、第6地区では全食口が、初来日された当時の真の父母様の心情世界を相続し、信仰の原点に戻って、真の父母様の夢と理想を私達の夢と理想として出発して参ります。

各教区・教会が、430双祝福勝利の基盤で、各祝福家庭の神氏族的メシヤの出発と教会伝道の強化をするため、祈願書を通した伝道及び教育、書写を通して、全食口が父母様の生涯の心情を相続し、氏族及び周りの人々に真の父母様の生涯を教え、今までの教会のイメージを払拭して参ります。

その上で、食口の5倍化・10倍化と、み旨の道で実体的に活動できる食口輩出のために教育に力を注ぎ、VISION2020を実現できる地区となり、世界貢献のために基盤構築を強化していく1年に参ります。

希望の2015年において、天の父母様と天地人真の父母様の愛と恩寵が、皆様の家庭と教会と周りの人々に共にある年となりますように祈願致します。

2015年・年頭の挨拶

天一国3年は
摂理史的大転換の時第7地区長
徐 永運

新年明けましておめでとうございます。

尊い天一国時代を開いて下さり、天一国創建に同参することを許して下さった天地人真の父母様の愛と恩恵に感謝申し上げます。

石川教区、富山教区、福井教区、岐阜教区に所属する7地区の責任者や食口全体は、新年を迎えて、真の父母様に絶対孝を尽くす子女となり、天一国創建に向かい忠臣の道理を果たす決意を新たにしました次第です。

新年は天一国3年を迎えて、個人と家庭、ひいては社会と国に至るまで、実体的天一国の基盤を築いて行くべき摂理史的大転換の時です。

この時に合わせ、2015年、日本教会は、①訓読の伝統確立、②青年・学生伝道の強化、③神氏族的メシヤの責任完遂、④真の家庭国民運動の展開——という活動指針をもって出発しました。

7地区はこの活動指針の下で、神氏族的メシヤの勝利と共に国家と世界に貢献する統一運動の主演として、誇らしき天一国の主人の位相を高めていきたいと思っております。その為、7地区は天一国を構成する祝福家庭の力量向上を目指し、家庭相談会や家庭集会、家庭教会などを充実させると共に、伝道所などの活動のための拠点確保に力を入れる考えです。

どうか7地区に対し、宋龍天総会長、徳野英治会長の下、本部の皆様と日本の食口の皆様のご指導やご声援、宜しくお願い致します。

そして2015年、母の国・日本の全祝福家庭と食口の皆様の大勝利を祈りながら、新年の挨拶を申し上げます。

模範的勝利の伝統を
立てて参ります!第8地区長
安井 邦彦

2015年は、真の父母様がご聖婚され人類の真の父母として顕現されて最初にご来日して50周年という、日本食口はもちろん、日本国民にとっても歴史的な転換の年になると確信します。

ご来日された1965年から5年間の日本は「イザナギ景気」という戦後最長の好景気による高度成長時代となり、国民総生産(GNP)世界第2位の経済大国となった時期と重なります。真の父母様が摂理的母の国として祝福して下さった天運が国運に連結された結果であったのは言うまでもありません。

50年目となる2015年は、祝福伝道を国民運動として展開しながら、真の父母様の業績と価値を日本1億2000万人国民に広く表していくことで、50年前とは比較にならない祝福家庭の基台が立つ事により、もっともっと大きく祝福されて国家的発展をしながら、2020年の東京オリンピックの頂点に向かっていく、その基点ともなる重要な年となるのではないのでしょうか。

東京代々木聖地に続いて2番目に決定して下さった名古屋東山聖地において、一昨年9月より各教会をリレーして行ってきた早朝聖地精誠祈禱会が、現在延べ参加者2万1000人を超え、基元節2周年を前にしてちょうど500日を迎えようとしています。

実体聖霊であられる真のお母様と一体となることで真のお父様をより近く感じ、成約の五旬節ペンテコステを起こして必ず天のみ旨を果たしたいと、多くの食口達が熱い心で毎朝精誠を尽くしています。

真の父母様の特別な関心と祝福が注がれた名古屋を中心とした伝統ある地区であると誇りをもって歩む第8地区の兄弟姉妹です。祝福伝道と神氏族的メシヤの使命完遂の模範的な勝利の伝統を立てる第8地区となれるように、全食口一つになって決意して参ります。

2015年・年頭の挨拶

天一国の
真の指導者になります!

第9地区長
朱 鎮台



創造主、天の父母様に似る天一国の指導者になります。

「天一国経典」の刻み付ける訓読を通して、天地人真の父母様と天地共鳴圏をなし、侍って、似て、和動しながら430家庭祝福伝道、神氏族的メシヤの使命完遂を通して、天地人真の父母様に似た天一国の真の指導者になります。

真の愛を実践する天一国の真の指導者になります。

真の父母様から祝福を通じて相続した真の愛を周辺に分ち合う、為に生きる生活を通して、産み、育て、立たせる三大主体思想的真の愛を実践する天一国の真の指導者になります。

天一国の真の主人になります。

VISION 2020 天一国定着の夢を実現するため、摂理に自発的、主体的に積極同参し、天一国の名門家の名を残す天一国の真の主人的指導者になります。

教会の創造的発展のため発表した「七大運営指標」に従って、真の家庭運動、純潔運動、統一運動を通じて、幸福な家庭、健康な教会、国家と世界に貢献する環境を創造していく進取的、創意的な天一国の真の指導者になります。

真のお母様のみ言を
日々実践して勝利を

第10地区長
上條 啓介



新年明けましておめでとうございます。

昨年2014年天一国2年目は、年初めから難しい年と言われ出発しましたが、真のお母様の日本に対する大きな愛と導きで越えることが出来ました。真のお母様に心から感謝いたします。

昨年9月23日の全国青年学生1万名大会の勝利について、真のお母様は「2000年前のイエス様の十字架の死後50日目に、マルコの屋根裏部屋で起こったペンテコステと同じ霊的復興が成された大会であった」と祝福されました。その土台のもと、2015年天一国3年目の今年は、真のお母様が昨年10月26日、全祝福家庭に向けて宣布された神氏族的メシヤ使命完遂を中心に、日本全体に大きなペンテコステを起こし、復興と飛躍と発展の年にしなければならない重要な年であると思います。

昨年、真のお母様は「私と一つになって歩めば、あなた方は必ず勝利できます。日々明日はない。今日が問題だ。今日勝利する決意で歩みなさい。日々早く動いて多くの人と会いなさい。天一国経典をよく訓読する精誠を尽くせば霊界が協助する。あなた方は何も恐れるものはない。堂々と叫びなさい」と言われました。このお母様のみ言を日々実践すれば、2015年は必ず勝利できると確信します。

10地区は、主体である本州の相対の島・二の立場の地区として、二の立場(母の中の母の立場)が勝利すれば、日本全体が勝利するという決意と心情をもって、2015年も地区全体が一つになって、全国の先頭に立ち、刺激体となって、真のお母様を最も愛し親孝行する地区となることを天の父母様と真の父母様に誓って出発します。

2015年・年頭の挨拶

喜びの連鎖を起こして
教会発展

第11地区長
黄 鼎禹



清々しい新年を迎え、この1年を新しい心で出発したいと思い、ここに2015年の抱負として、3つのことを挙げたいと思います。

まず1つ目は、教会員の満足度の向上です。私たちは何を願い、そして願われているのでしょうか。天の父母様からは幸福を願われ、個人でも幸福を願っています。幸福とは何かを考えると、やはり天の父母様を中心とする家庭づくりであると考えます。

家庭でのより深い幸福を教会員の皆様に感じて頂くために、家庭的な教会づくりや定着、そして、そのための家庭指導など、様々な取り組みをしていきます。それは個人や家庭の満足度、幸福度が教会発展の基盤となるからです。

そして2つ目は、その幸福の連結拡大です。私たちが個人で、または家庭で天の父母様を中心とする幸福を得たならば、喜びの連鎖が起こるはずで、喜びの連鎖作用は教会の発展となります。

私たちが幸福な家庭の見本となるならば、親族をはじめたくさんの人々が関心を持ち、教会の門をたたくことでしょう。私はそういう人たちを教育し、たくさんの祝福家庭を生み出していくことを願っています。

最後に3つ目ですが、国家と世界に貢献できる家庭と教会づくりです。天の父母様を中心とする幸福実現と発展は、個人に留まるはずがありません。天の父母様の心情と事情に立つならば、必ず世界へと向かうはずであります。

天の父母様と真の父母様の心情と事情に一致して国家と世界に貢献をしていきたいと思っています。

以上の3点を果たすことを自らの抱負とし、念頭において日々の活動や取り組みを成していく所存です。

天の夢を叶える先覚者として
新時代を開きましょう!

第12地区長
朴 鍾泌



希望の新年を出発しながら、12地区を中心として必ず成し遂げたいことがあります。

まず第一に、天の父母様の願われる神氏族的メシヤの勝利のため、各現場に合った伝道体制を確立することです。

神氏族的メシヤは、各家庭の責任だけではなく、教会の共同体を通じてお互い助け合い、共に勝利できる体制を作らなければなりません。書写を通じた伝道や祝福を通じた伝道、オープン礼拝を通じた伝道など、現場に合った多様な伝道体制を確立していきます。

二番目は環境創造です。氏族圏を連れてくることのできるような聖殿を建設しなければなりません。そして二世、青年たちを伝道教育するためにも教会環境は大事です。

三番目に、今年は日韓国交正常化50周年を迎える節目の年になります。

33年前、真の父母様は日韓の平和と協力、更にアジアの平和と世界平和のため、日韓トンネル構想を提案されました。昨年は九州各地において日韓トンネル推進市民大会を開き、啓蒙活動を活発に行うことで外的基盤をもつようになりました。

2015年は、国家的プロジェクトとして推進されるよう、現地の知事、市長、議員の渉外を通じて更なる基盤拡大を進めたいと思います。

どんなに難しい時代でも目覚めている少数の先覚者たちが未来の夢を持ち、開拓の道を行くことで新しい歴史が始まります。

天の父母様に侍り、天の夢をかなえる天一国創建のため、目覚めている先覚者となり、新時代を開きましょう。

2015年・年頭の挨拶

真の父母様に代わって愛・生命
祝福の種をまいて基盤拡大第13地区長
金 成南

2015年が幕開けして、13地区は新しく生まれた立場で出発して参ります。

天一国時代に焦点を合わせて、み言を生命視、絶対視して善なる霊界の協力を受けて天運を連結し、食口たちが和合して一つとなって、永遠なる使命である神氏族的メシヤとしての自覚をもって出発いたします。

天運に乗って伝道と祝福、母の国が福地となるように一人ひとりが天民となれるように決意を新たに出発いたします。

2015年は、真の父母様が1965年来日されてから、50周年を迎える記念の節目であります。

恩讐の国である日本を精誠をもって立てられ、世界復帰、天宙復帰に向けて最初の国として訪問してください、愛の種、生命の種、祝福の種をまいて下さいました。

今年2015年のご来日50周年記念を新たなる出発点として、これからの50年間は真の父母様の代わりに私たちがカイン圏に向けて、愛の種、生命の種、祝福の種をまいて基盤を拡大することが真の父母様の切なる願いではないでしょうか。

13地区の熊本教区、大分教区、宮崎教区、鹿児島教区、沖縄教区が祝福あふれる地として、人々が祝福を受けて天の父母様から愛される地となるように祈願しながら、特にVISION2020の勝利に向けてこれからの5年間、精誠を尽くして絶対勝利いたします。

昨年を遙かに超える
飛躍的な祝福伝道を決意第14地区長
青木 大

新年、明けましておめでとうございます。

2014年3月、真のお母様の御指導のもと、全国16地区体制となる中で新しく出発した14地区は、2年目を迎えました。

昨年9月、地元千葉・幕張において1万名青年学生大会が開催され、2020年に向かう青年学生基盤10万名のスタートをどこよりも早くさせていただき、青年学生たちが未来に希望を感じて伝道に目覚め始めました。それと同時に、二世圏に対する教育が強化され、希望溢れる教会に向かって変化が始まりました。

そして、各教会の祝福伝道が進む中、10月に真のお母様が主管された連合礼拝を通じて、神氏族的メシヤ使命完遂勝利の更なる決意を与えられ、南千葉教区で470双祝福式を行うことが出来ました。

その後、真のお母様から「祝福を受けた家庭をよく管理・教育しなさい」とのみ言をいただき、今、取り組んでいるところです。

2015年は、摂理歴史的に節目の年を迎えております。VISION 2020 成就に向かう為、まず始めに真の家庭国民運動結成大会を執り行い、現代社会の根本課題である「家庭」をテーマとして家庭再建に取り組みます。

私達が日本のモデルとなり、世界の前に見本を示す者となって、神氏族的メシヤ活動を中心に、昨年を遙かに超える飛躍的な祝福伝道を推進して参りたいと決意しております。

愛する兄弟姉妹の皆様と一つとなって、2015年も大きな喜びを天の父母様と真の父母様に捧げて参ります。

皆様と皆様の家庭、国家が健康で明るい未来を築く事ができるよう心からお祈り申し上げます。

2015年・年頭の挨拶

新たな自分となって
出発すべき時第15地区長
熊谷 栄佐雄

新年あけましておめでとうございます。

今年は真の父母様のご来日50周年にあたり、大きな節目の年でもあります。

真の父母様は1965年1月28日、世界の40カ国に120カ所の聖地を決定するため第一次世界巡回路程に出発され、最初の巡回国として日本に到着されました。そして、2月12日にアメリカに向けて出国されるまでの期間、全国の主要8カ所に聖地を決定されたのです。

そのような大きな節目の時に、最も重要なことは、初心に帰ることではないかと思えます。天の父母様の真の愛、真の父母様の尊さ、統一原理の価値等を再確認し、新しい出発を成さなければならないと深く感じています。

その為にも外部の環境や自分以外の誰かに変化を求めるのではなく、私自身が一番に変化する新年の出発としなければいけないと思っています。

そのことによって、今までとは違う私自身となり、天の父母様と真の父母様の新たなる尊い価値を思い出すことを通じて、全てが新しい出発になるのではないかと考えます。

全国の皆様、基元節2周年及び聖和3周年を迎えるにあたって、宋龍天全国祝福家庭総連合会総会長、徳野英治日本統一教会会長と一つになって、天一国完成と神氏族的メシヤ勝利に向けて、食口相和しながら喜びの栄光を天に捧げるべく、今年一年を限りなく邁進して参りましょう。

神様に信頼される
正しい信仰者となろう!第16地区長
陸 泰昊

新年明けましておめでとうございます。

いよいよ迎えた2015年は、真の父母様が1965年にご来日されてから50周年となる記念の年です。

新約聖書「使徒行伝」2章1～4節にあるごとく、50日目を中心として五旬節の聖霊の奇跡が起きたように、数理の摂理をなされる神様のご意向が、来日50周年になる今年に合わせて、とてつもない役事を行われると思えます。

神様の祝福によって、日本全体に聖霊が満ち溢れ、全国民が真の父母の愛と真理に感動し、日本が新しい信仰の基礎を立てる天宙史的な転換点となるでしょう。

このような驚くべき恵みが溢れる2015年を、私たちはいかに迎え、いかに歩むのかが問われる重要な時だと思えます。

今年の信仰の目標を考えると、祝福を与えようとする神様に、いかに信頼して頂ける日本、教会、家庭、そして個人となるかです。

その為には、「正しい信仰生活」が大事です。聖霊の働きは真実性を持つ信仰者に満ち溢れるものです。偽りの者には聖霊が共にすることが出来ません。

正しい基準を守る信仰者が集まって精誠を尽くす日本になる時、神様も喜んで祝福されると思えます。

天の父母様、天地人真の父母様との出会いを通じて、創造本然の世界を目指すことが出来る真なる人生を与えてくださった恩恵に感謝しながら、今年も最後まで躊躇せずに歩み続ける信仰者となって、兄弟姉妹と共に喜びを分かち合いたいと思えます。

世界に母親としての使命を完遂して、永遠に誉め立てられる日本になりましょう。



①「献堂式」に参加した食口たち（1月11日）
②挨拶する熊谷栄佐雄・第15地区長 ③記念説教をする李海玉総会長夫人
④祝辞を述べる鴨野守広報局長 ⑤新しい奈良・檀原教会



「天に感謝する心で 光輝く者となれ」

奈良・檀原教会聖殿献堂式、李海玉総会長夫人が記念礼拝

1月11日午前、奈良県檀原市内で「檀原教会献堂式」が行われ、教会員約200人が集いました。奈良教区の他の教会にもインターネット中継され、多くの教会員が参加しました。

第1部は午前10時20分からテープカットが行われ、李海玉・全国祝福家庭総連合会総会長夫人が祝辞を述べました。

引き続き、佐々木一成・奈良教区長の司会で始まった第2部の「献堂式記念礼拝」は、天一国の歌の斉唱、敬拝、家庭盟誓、網尾小百合・檀原教会婦人代表の報告祈禱、祝電と続いた後、檀原教会の青年コーラス隊が祝歌として、「君は愛されるために生まれた」と「勝利の日まで」を力強く歌い、場を盛り上げました。

開拓伝道当時から献堂式に至るまでの歩みをまとめた映像が上映され、金炫鉦・檀原教会長が経過を報告しました。

次に、功労者の表彰、熊谷栄佐雄・第15地区長の挨拶の後、鴨野守・広報局長が祝辞の中で、奈良女子大学時代にみ言に出合った白尾幸子姉妹が1973年、天の父母様、真の父母様と共に檀原の地を開拓伝道し、その後、海外宣教に取り組んだ証しを紹介す

ると、会場は感動に包まれました。

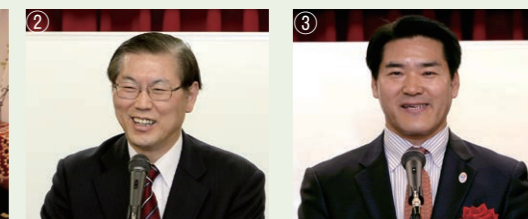
李海玉総会長夫人は説教の中で、「お会いできて嬉しいです。美しい聖殿（檀原教会）を通じて、天の父母様がどれほど多くの奇跡を見せて下さるかを考えると、夜も眠れないくらいです。私たちに永生を教えて下さり、私たち一人ひとりを愛の眼差しで見つめ、愛し投入して下さいた天地人真の父母様に感謝の心を持ちながら、新しい2015年を共に出発し、母の国・日本をけん引する奈良教区、檀原教会の光り輝く皆さんになって下さい」と激励しました。

金炫鉦教会長が「億万歳四唱」をリードし、全体で記念撮影と「福の飴まき」が行われ、最後に李海玉総会長夫人が参加者全員と握手し、感謝と感動の中で「献堂式記念礼拝」は終了しました。

第3部の「記念午餐会」では、植村スミ子・奈良教区婦人代表の報告祈禱の後、水本竹治・檀原教会壮年部長の乾杯で歓談の時間が始まりました。終始和やかな雰囲気の中で会食が進む中、最後に李海玉総会長夫人は挨拶で、「食口たちがとても明るいし、これから檀原教会はモデル的な教会になっていきますね」と祝福し、午餐会は終了しました。



①八尾教会の献堂式に集まった参加者
②記念説教を行う徳野英治会長
③挨拶する朱鎮台第9地区長
④新しい八尾教会前でされたテープカット



愛国・救国の「真の家庭運動」で 平和世界実現を

東大阪・八尾教会献堂式に225人が参加

1月11日午後、大阪府八尾市内で、東大阪教区の「八尾教会献堂式」が行われ、約230人の教会員が集まりました。

八尾教会前で徳野英治・日本統一教会会長夫妻らによるテープカットが行われた後、礼拝堂で記念礼拝を挙行。敬拝、家庭盟誓、重野早苗・八尾教会婦人代表の報告祈禱の後、地元有識者の祝辞、松倉慎二・東大阪教区長と朱鎮台・第9地区長による激励の挨拶がありました。

徳野会長は、「教育の再建」「家庭再建」をテーマに行った説教の中で、「今の日本は、若い世代の自殺や離婚などが深刻な社会問題となっています。文鮮明総裁が教えて下さった真の愛の思想に基づいて現在の日本の教育を見直し、家庭再建を通じた愛国・救国運動を推進しながら、理想家庭を礎とする平和世界を実現しましょう!」と語り、「真の家庭運動」の必要性を強調。八尾教会に対しては「八尾市の人口は約27万人です。この教会に満足することなく、たくさん伝道して、2倍、3倍大きな教会を建てる事が出来るよう頑張ってください」と激励しました。

次に、朱鎮台・第9地区長が、教会献堂に貢献した人々

に感謝状を授与。徳野会長の祝詞の後、後藤庸介・八尾教会長が「将来、この教会は青年学生の会館にして、教会は2倍、3倍ではなく、10倍、100倍を目指して頑張ります!」と力強く決意表明し、全体で億万歳四唱を行いました。

第2部では、祝賀のケーキカットに続き、八尾教会の聖歌隊「エイト・プレインズ・クワイヤ」の合唱、親子のギター演奏、韓国婦人の歌と踊りが披露され、最後に徳野会長ご夫妻が、真の父母様のお好きな「ホルロアリアン」を歌い、献堂式は終了しました。

【参加者の感想】

徳野会長のお話は国の事だけでなく、世界を意識していることに感銘を受けました。教育の重要性は以前より考えていたことですので、今後も継続して学ばせて頂きながら、その内容を実際に展開したいと思います。(地元有識者)

教育問題や家庭問題など、日本社会が抱えている問題の根本は同じであり、私たちが問題解決の先頭に立たなければならぬと感じました。また、「この建物で満足してはいけません。八尾市民全員を導く気持ちで頑張ってください」と激励して下さいたので、感謝して歩んでまいります。(50代の女性教会員)



①笑顔で挨拶する李海玉総会長夫人
②説教を行う徳野英治会長
③李海玉総会長夫人から記念品を受け取る参加者
④徳野英治会長の説教に耳を傾ける参加者

「真の父母様と一つとなって 天運相続を」

国家的メシヤ新年礼拝に 160 人出席

1月12日、東京・渋谷の教会本部2階礼拝堂で、徳野英治日本統一教会長と李海玉・全国祝福家庭総連合会総会長夫人をお迎えし、日本人「国家的メシヤ」の新年礼拝および新年会が行われ、160人を超える参加者でにぎわいました。参加者たちは、1年の出発に際して新たな決意を固めるとともに、旧交を温めながら和やかなひと時を過ごしました。

礼拝堂の丸いテーブル席には、有志が食事や果物を準備。また急用のため欠席した宋龍天総会長から各家庭に記念品が贈られ、李海玉総会長夫人が代わって各家庭に手渡されると、参加者たちから喜びの拍手が起きました。

飯野貞夫氏の司会で行われた第一部の新年礼拝では、徳野会長が説教を行いました。その中で徳野会長は、「真のお母様は現在、真のお父様と霊的に交わり、心情的に会話をし、一体感をもって生活しておられます。そのことは、お母様のみ言や雰囲気、行動の一つ一つを通してにじみ出てくるように私たちに伝わってきます」と指摘。

その上で、「50年にわたって真のお父様と生活を共にし、そばで待ってこられたのがお母様です。どの弟子よりも、ご子女様よりも、お父様の生き様、心情、生活のスタイル、哲学などすべてを見続けてこられました。そ

のお母様が、お父様と一体となって今の摂理を引っ張っておられるのです」と語り、天の父母様（神様）と一つになっておられる真の父母様と私たちが完全に一つになることが、私たちが天運を相続する鍵であると強調しました。

お父様と一心同体となり、自らが先頭に立って私たちに導いておられるお母様の心情についての証しを聴きながら、参加者たちはお母様のご苦勞を偲び、心深く沁みわたる感動を覚えるとともに、「真の父母様にこれ以上、重荷を負わせてはいけません。私たちこそ忠孝の心情を今年も存分に捧げていこう」と新たな決意をさせられました。

引き続き昼食を挟み、第二部として柴沼邦彦氏の司会で新年会を開催。心に響く美しい「紫のムゲンファ（無窮花）」の独唱や見事な手品、川崎教会青年部の爽やかなコーラスのほか、祝福二世がフルートと琴で「春の海」などの名曲を披露し、会場は大いに盛り上がりました。

また、大工として南米パラグアイ・レダでボランティア活動を行ってきた男性メンバーの証しのほか、支援者・優秀者の表彰、全国の総支部長の紹介などがなされ、新しい一年の門出にふさわしい充実した会合となりました。



①祝福式の参加者たち
②主礼のメッセージを述べる徳野英治会長
③祝祷を受ける参加者
④祝賀会で行われたケーキカット



「これしかない」 祝福式に明るい未来見出す

青森教区で「2015 天地人真の父母天宙既成祝福式」

1月24日午前、主礼に徳野英治日本統一教会会長ご夫妻を迎えし、「青森2015 天地人真の父母天宙既成祝福式」が青森市内の会場で行われ、既成祝福11組と独身祝福116組、合わせて127組の祝福家庭が誕生しました。青森教区では昨年7月以来の外部会場での祝福式となりました。

午前11時、祝福式は徳野会長による簡潔で分かりやすい主礼メッセージをもってスタート。その後、聖水儀式、聖婚問答、祝祷、指輪の交換、聖婚宣布と和やかに進み、会場は花が咲きそろそろ花畑のように彩りも鮮やかな雰囲気でした。

第2部の午餐会では、バンド演奏、聖歌隊による合唱、スコップ三味線、成和部メンバーによるダンスで大いに盛り上がり、参加者の感想発表の時間では、一人ひとりに働く神様の役事を感じさせられ、出席者の感動を誘いました。

徳野久江会長夫人と徳野会長からのメッセージの後、徳野会長が参加者一人ひとりに記念品を手渡しました。

今回は、み言をほとんど聞いたことのない参加者が多いという状況でしたが、式典を通して参加者は一様に感動。出席者の誰もが、祝福式に役事される天の父母様を実感させられる恩恵深い式典となりました。

【参加者の感想】

青森教会 Tさん

朝から夢のような出来事が続いています。今回、親と子がそろって既成祝福を受けることができました。変わらずに投入して下さる区域長さんが一つ一つ私を指導して下さい、引っ張って下さいました。また、遠い所から教育するために来て下さった教区長さんに本当に感謝いたします。

弘前教会 Hさん

夫婦がこのようにもう一度結婚式を挙げる事ができて、主人と心新たに、新しい出発ができるような気がしてとてもうれしいです。これから夫をもっと愛していきたいと思います。

上十三教会 Mさん

立派なこの席に参加できて本当にありがとうございました。昨年9月の末、Sさんに導かれてこの宗教を知りました。息子がまだ独身なので、これしかないと感じています。これからいろいろな事を学びたいと思います。よろしくお願いします。

八戸教会 Yさん

1月初め、Hさんがしばらく休んでいた私を訪ねて来て下さった時は、夫が亡くなって2カ月の時でした。再び教会に繋がる事ができるようになり、とても感謝です。これから明るい希望を感じて生きることができそうです。ありがとうございました。